

令和5年度学校評価アンケートの結果と分析

新宿区立市谷小学校

<確かな学力の向上>

主体的・対話的で深い学び

育成したい資質・能力を明確にし、基礎的・基本的な学習内容の定着を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」につながる創意工夫した学習指導を行う。

【評価指標】

★学校評価における「わかりやすい授業」に係る項目で90%以上の肯定的回答を得るとともに、区学力調査において、学校平均がそれぞれの調査母体の平均を上回る。

※全国学力（6年）は実施済（国語、算数）、都学力（4～6年）は意識調査のみ実施済

新宿区学力定着度調査（2～6年）については、12月13日（水）に実施したが、結果は出ていない。

◇学校評価アンケート

児童・保護者「先生の授業は分かりやすいと思う」

教職員 「あなたは、児童や生徒にとって、分かりやすい授業を行っている」

(単位 %)

	児童（低学年）	児童（中・高学年）	保護者	教職員
とてもそう思う	73	53	31	38
そう思う	22	36	53	54
あまり思わない	4	7	8	8
思わない	1	4	3	0
分からない	0	0	5	0

【分析】

○児童の肯定的な回答が9割程度であり、教職員も9割を超えていることから、分かりやすい授業に向けた教員の熱意や努力が、児童の学習内容の理解につながっており、そのことを多くの児童も実感していることが伺える。また、保護者の肯定的な回答も8割を超え、昨年度より12ポイント上回っていることから、改善につながっている。

※全国学力テストにおける6年生の結果は、全教科の全領域で、全国平均を上回っている。

▼肯定的な回答を示していない児童もいるので、今後、個に応じた指導がさらに必要である。

情報活用能力

情報活用能力の育成に向けて、タブレット端末を活用し、情報の収集・整理・比較を図る学習に取り入れる。

【評価指標】

★学校評価における「ICTの活用」に係る項目で90%以上の肯定的回答を得る。

◇学校評価アンケート

児童「タブレットPCなどを使って、『調べる』、『まとめる』、『伝え合う』授業を行っていると思う。」

保護者「学校は、タブレットPCなどを使って、子どもが『調べる』、『まとめる』、『伝え合う』授業をよく行っている。」

教職員「あなたは、『主体的・対話的で深い学び』の視点で、タブレットPCなどを活用している。」

(単位 %)

	児童 (低学年)	児童 (中・高学年)	保 護 者	教 職 員
とてもそう思う	5 1	6 9	2 5	2 3
そう思う	3 0	2 6	4 8	5 4
あまり思わない	1 2	4	1 1	2 3
思わない	7	2	3	0
分からない	0	0	1 3	0

【分析】

- 肯定的な回答をした児童は、低学年では8割、中・高学年では9割を超えていることから、タブレット PC を意欲的かつ効果的に使いながら授業に取り組んでいる様子が伺える。
- 肯定的な回答をした保護者は、昨年度より7ポイント程増えている。学校公開等で、タブレット PC を活用した授業の様子について理解していただいたものと考えられる。
- 「思わない」と答えた教員は0であった。苦手意識をもっていた教員も少しずつ慣れ、授業に活用できているものと思われる。
- ▼否定的な回答を示した児童がまだいるので、タブレット PC に苦手意識をもっている児童についても配慮が必要である。

<豊かな心の育成>

あいさつ

教員の率先垂範をもとに、登下校、朝会や帰りの会、授業前後等の日常のあいさつの充実に努める。

【評価指標】

★学校評価における「あいさつ」に係る項目で90%以上の肯定的回答を得る。

◇学校評価アンケート

児 童「学校や家庭、地域で自分からきちんとあいさつをしている」

保護者「家庭では、子どもが学校や地域で自分からきちんとあいさつするよう習慣づけている」

教職員「あなたは、児童の人権を尊重し、あいさつや言葉がけ、呼び名等、丁寧に行っている」

(単位 %)

	児童 (低学年)	児童 (中・高学年)	保 護 者	教 職 員
とてもそう思う	5 1	5 6	2 3	7 7
そう思う	3 4	3 3	6 5	2 3
あまり思わない	9	6	9	0
思わない	5	4	1	0
分からない	0	0	2	0

【分析】

- 肯定的な回答が児童、保護者ともに9割近くであることから、あいさつに対する意識は高い。地域の方々による毎日の登下校の見守りも大きな成果となって表れている。
- 全教職員が肯定的な回答をしており、あいさつについても、日頃から意識を高くもち、重点的に指導しようとする姿勢が見られる。
- ▼肯定的な回答に及ばなかった児童に対していかにアプローチをして、あいさつを習慣づけていくかについては、検討、工夫の余地がある。

いじめ防止

いじめ、不登校、問題行動等対し、教員間の連携を密にし、hyper-QU 及びアンケート調査の活用、SC 面談の実施、いじめ防止対策委員会により、未然防止や早期対応を図る。

【評価指標】

★每学期実施の「ふれあいアンケート」の回答や記述及び hyper-QU の結果を分析・共有を図り、対応する。

◇学校評価アンケート

児童・保護者「いじめ等の問題がある時には、すぐに先生に相談することができる（しようと思う）」

教職員 「あなたは、児童や生徒の話聞くなど、交友関係の把握やいじめの早期発見に努めている。」

(単位 %)

	児童 (低学年)	児童 (中・高学年)	保護者	教職員
とてもそう思う	59	45	33	69
そう思う	27	34	47	31
あまり思わない	8	13	7	0
思わない	7	7	3	0
分からない	0	0	11	0

【分析】

○児童、保護者の肯定的な回答は、8割程度に及んでいる。

○全教職員が肯定的な回答をしている。いじめ防止に対する教職員の意識が高まっている。

▲高学年児童のうち肯定的な回答ではなかった児童が多い。

▲児童がいつでも、なんでも相談できるような風土や関係づくりに努めていく。

▲毎月のふれあいアンケートの実施方法を工夫・改善する。

▲情報共有や指導の共有化等、未然防止、早期対応に向け取り組んできたが、4月から11月末までのいじめの発生件数は15件であった。ただし、全て解消済みである。

<体力の向上>

体育の授業において、体を動かす時間をできる限り確保するとともに、運動の特性を踏まえ、創意工夫した指導を行い、運動の楽しさを味わわせる。

新宿ギネスの取組を活かし、体力向上への意識を高め、継続的に取り組む態度の育成を図る。

【評価指標】

★学校評価での運動への主体性や楽しさに係る項目で、85%以上の肯定的回答を得る。

※体力テストについては、1学期に実施した。

◇学校評価アンケート

児童 「体育の学習は、体を動かすことができ楽しい。」

保護者「学校は体育の授業や休み時間を通じて子どもたちが体を動かし、体力の向上を図れるよう指導を行っている。」

(単位 %)

	児童 (低学年)	児童 (中・高学年)	保護者	教職員
とてもそう思う	81	72	19	
そう思う	14	17	61	
あまり思わない	2	6	11	
思わない	2	5	3	
分からない	0	0	7	

【分析】

○児童の肯定的な回答が9割程度、保護者は8割程度となった。コロナ禍も終わり、少しずつ運動への制限がなくなり、児童が十分な運動を行っていることが伺える。

▼体力テストではどの学年も全国平均を下回ったので、特に課題の見られる持久走、走力及び投力の習得を意図的に行っていく必要がある。

▼体育の指導内容や「新宿ギネス」、体育朝会（長縄、短縄等）を引き続き工夫を凝らして行う。

<地域連携>

地域と学校との連携強化のために、地域協働学校運営協議会委員やスクールコーディネーター等の地域人材との連携を密にする。

【評価指標】

★学校評価アンケートにおける「地域の人と一緒に活動をしている」の項目で、80%以上の肯定的回答を得る。

◇学校評価アンケート

児童「学校に関わる地域の人から様々なことを教わったり、一緒に活動したりしたことがある」

保護者「学校は、子どもが学校に関わる地域の人と一緒に活動する機会をよくつくっていると思う。」

教職員「あなたは、児童が、学校に関わる地域の人と一緒に活動する機会に積極的に関わっている。」

(単位 %)

	児童（低学年）	児童（中・高学年）	保護者	教職員
とてもそう思う	57	37	24	15
そう思う	30	33	57	77
あまり思わない	7	21	5	8
思わない	6	9	1	0
分からない	0	0	14	0

【分析】

○肯定的な回答については、低学年児童や保護者が8割を超えている。特に肯定的な回答は昨年度と比べて低学年は8ポイント、保護者は18ポイント上回っている。また教職員も肯定的な回答は9割を超え、昨年度から19ポイント上回っていることから、地域連携への意識や意欲の高まりを感じる。コロナ禍が終息し、地域の方々の学校への支援体制がさらに充実・強化されたことによる改善であると考えられる。

▼中、高学年児童の肯定的な回答が7割程度と留まっているので、地域連携授業についてはさらに充実を図っていく。